

庵治石 ドバイへ初輸出

高松市特産の高級石材「庵治石」が、中東ドバイに初めて輸出された。現地の五つ星ホテルに今秋開業予定の日本食レストランに採用され、店内のカウンターや壁材などに広く使用される。受注した同市牟礼町の石材業者らは「庵治石の魅力」を世界に広める一歩にしたい」と意気込んでいる。

五つ星ホテル 日本食レストランで活用

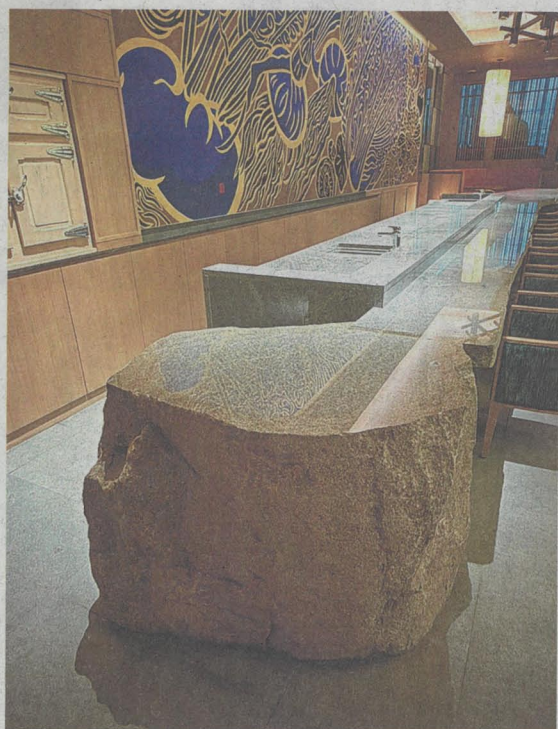
庵治石は、きめ細かい文様と光沢の美しさから「花こう岩のダイヤモンド」とも呼ばれる。風化に強く、長年墓石として使われてきたが、墓石需要の減少を背景に、建築材料や景観用石材としての活用が広がっている。

今回、庵治石を納めたのは、採石から加工・施工までを一貫して手がける「石材商 太元屋」（同市牟礼町、和泉憲社長）。レストランの設計を担当した建築士が

「日本食店にふさわしい、最高級の日本の石を」と希望したことが選定のきっかけとなった。

納品されたのは、長さ10メートルを超えるメインカウンターや階段、壁面、看板など計200点を超えるパーツで、総重量は約30ト。協力業者10社と連携し、約1カ月半で加工や仕上げを完了させた。

太元屋ではこれまで商社を通じて中国向け輸出の実績はあったが、自社による輸出は今回が初め



庵治石を使ったメインカウンター＝ドバイ

カウンター、壁材など200点超

「魅力世界に広める一歩に」



庵治石を使ったメインカウンターの組み立てを指示する和泉社長（左端）＝ドバイ

て。庵治石の産地としてもドバイへの出荷は前例がなく、関税や物流手続きは「一から調べる状態」で、まさに手探りだった（和泉社長）。梱包作業を担った小河梱包（同市）が豊富な輸出経験を持っていたことも、輸出実現の支えとなった。

石材はすべて船便で運ばれ、約1カ月半かけて6月中旬にドバイへ到着。現地で施工工事に立ち会った和泉社長は「『これは世界一だ』『非常に格好いい』と現地関係者に絶賛された。香川の人が思っている以上に、世界に通用する石だと感じた」と手応えを語る。

レストランは9月開業予定。和泉社長は「今回の経験を足がかりに、今後は日本貿易振興機構（JETRO）などとも連携して輸出拡大を図りたい。産地が力を持っている今のうちに世界に発信し、次世代につなぐたい」と話している。